

◇学校保健会だより④3号 発行によせて



墨田区学校保健会 会長 萩川 雅彦

平素は、学校保健活動にご尽力いただき誠にありがとうございます。

第 44 回墨田区学校保健総会も無事終了いたしました。次年度に向け、更に充実した学校保健会を目指していきたくと思いますので、ご協力をお願い申し上げます。

令和7年度は、7名の方々がお褒めいただき感謝状を受賞されました。心よりお慶び申し上げます。また、総会終了後の記念講演では、隅田小学校 学校薬剤師 濱野明子先生による「学校薬剤師の行う薬物乱用防止教室 オーバードーズ防止を含めて」についてお話を伺いました。近年、10代～20代を中心に、学校や家庭でのつらい気持ちを紛らわせるためにオーバードーズが増加しているようです。大変興味深いご講演でした。

子どもたちの健やかな成長にとって、「食べる」「話す」「笑う」といった日常の営みを支える口腔の健康は、極めて重要な基盤です。私たち学校歯科医は、単なるむし歯予防にとどまらず、生涯にわたる健康づくりの出発点としての学校歯科保健を担っているという自覚のもと、日々活動しております。

近年は、生活習慣の変化や多様化により子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しております。その中で、学校・家庭・地域が連携し、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を行うことの重要性はますます高まっております。

また、子どもたちの口腔を取り巻く環境も大きく変化しております。むし歯は減少傾向にある一方で、「噛めない」「飲み込めない」「正しく発音しにくい」といった口腔機能の課題が注目されるようになりました。とりわけ口腔機能発達不全症は、食べる・話す・呼吸するといった日常生活の基本に関わる重要な問題であり、早期発見と継続的な支援が求められております。

学校歯科医の役割は、健診による疾病の発見にとどまらず、子どもたちが将来にわたり自らの健康を守る力を育むことにあります。学校・家庭・地域医療が連携し、成長段階に応じた支援を行うことが、これまで以上に大切になっております。今後とも学校歯科医会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次

- P1 『学校保健会だより④3号 発行によせて』
墨田区学校保健会 会長 萩川 雅彦
- P2 第44回墨田区学校保健会総会開催される
～永年勤続功労者7名に感謝状～
- P3 令和7年度各種学校保健研究大会参加報告
- P3 小梅小学校 学校薬剤師 伊藤 玲奈
- P4 錦糸小学校 学校薬剤師 鴨下 寛明
- P5 寺島中学校 学校薬剤師 川村 妃砂子
- P6 『認知症について』
小梅小学校・横川小学校 学校医 山室 学

- P7 保健室から
「子供たちの心身の健康を支えるために」
中和小学校 養護教諭 石井 由里子
- P8 墨田区学校保健会総会記念講演
「学校薬剤師の行う薬物乱用防止教室
～オーバードーズ防止を含めて～」
隅田小学校 学校薬剤師 濱野 明子
- P9 墨田区立小中学校 定期健康診断疾病異常集計表(R6)
- P10 墨田区立小中学校 学校管理下における負傷の種類別
災害発生状況(R6)
- P10 墨田区立小中学校 児童・生徒の体位(R7)
- P10 令和7年度東京都教育委員会表彰被表彰者

◇第 4 4 回 墨田区学校保健会総会開催される

～永年勤続功労者 7 名に感謝状～

第 44 回 墨田区学校保健会総会が、令和 8 年 1 月 29 日(木)午後 1 時 30 分から、墨田区役所 1 3 階 1 3 1 会議室で、学校保健関係者 78 名の参加のもと開催されました。最初に令和 7 年度学校医等永年勤続功労者 7 名に、加藤裕之教育長から感謝状の贈呈が行われました。

感謝状贈呈の後、加藤教育長から祝辞があり、墨田区学校保健関係者への謝意が表されました。

次に主催者を代表して、菟川墨田区学校保健会会長が挨拶され、菟川会長が総会議事の議長、そして谷澤墨田区学校保健会副会長が副議長として選任され、令和 7 年度の事業報告及び令和 8 年度の事業計画(案)について審議を行い、いずれも原案どおり了承されました。

続いて、令和 7 年度各種学校保健研究大会に参加された先生方に大会参加報告を行っていただきました。学校薬剤師の伊藤先生からは「第 76 回関東甲信越静学校保健大会」、学校薬剤師の鴨下先生からは「令和 7 年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会」、そして学校薬剤師の川村先生からは「令和 7 年度全国学校保健・安全研究大会」について、それぞれ貴重な参加報告を発表していただきました。



受賞された先生と教育長（後方は委嘱校の教職員）

《永年勤続功労感謝状受賞者》

30 年（区長表彰）

（敬称略）

職 種	氏 名	委 嘱 校
学校医 (精神科)	荻野 耕平	全中学校
学校薬剤師	山村 昌敬	菊川小学校 菊川幼稚園

25 年（教育委員会表彰）

（敬称略）

職 種	氏 名	委 嘱 校
学校医 (眼科)	川名 浩一郎	中和小学校 曳舟小学校 吾嬬第二中学校
学校薬剤師	鳥居 徹也	本所中学校

15 年（教育委員会表彰）

（敬称略）

職 種	氏 名	委 嘱 校
学校歯科医	堀川 晴久	竪川中学校
学校薬剤師	小澤 久美子	錦糸中学校
学校薬剤師	川松 いずみ	文花中学校 文花中学校(夜間)

◇各種学校保健研究大会参加報告

第 76 回関東甲信越静学校保健大会

小梅小学校 学校薬剤師 伊藤 玲奈



令和 7 年 8 月 7 日（木）TKP ガーデンシティ千葉にて第 76 回関東甲信越静学校保健大会が開催されました。参加してまいりましたのでご報告いたします。

本大会は関東甲信越静 11 都県の学校教職員、学校医、教育委員会関係者など約 800 名が参加し、学校保健などについて意見共有する貴重な機会となっております。

午前中は SMBC グリーンサービス株式会社東日本人事部の村山浩氏による、「車いすになってよかった」と題する特別講演が行われました。村山氏は東京 2020 およびパリ 2024 パラリンピックにおいて車椅子バドミントンの銅メダリストでいらっしゃいます。大変気さくなお人柄で、当日は 2 つの銅メダルをご持参くださり、実際に拝見することができました。

34 歳のある朝、突然下半身が動かなくなり、ギランバレー症候群と診断されたとのこと。そこから車椅子バドミントンと出会い、多くの仲間たちとともにパラリンピックの舞台に立たれるまでのお話は、まるで映画の主人公のようなドラマチックな内容でした。つらい経験を前向きな気持ちに変化させ、挑戦を続ける姿は子どもたちにもぜひ伝えたいものであり、これから壁にぶつかったときの励みになるような素晴らしい講演でした。

午後は、5 つの班にわかれて班別研究協議会が行われました。私は第 5 班に参加し、「学校環境衛生」と「安全教育」についての意見交換を聴講いたしました。

「安全で快適な学習環境づくりの推進」として埼玉県立蕨高等学校の工藤由未先生の発表では、普段私たち学校薬剤師が日頃関与している環境衛生について、生徒にも積極的に関わってもらう取り組みが紹介されました。

生徒たちに関わってもらう取り組みを進めた結果、感染症罹患率や保健室の利用者が減少したとの報告は大変興味深いものでした。

また「自分の命を守るための行動ができる子どもを育てる」として長野県伊那市手良小学校の穴澤由香里先生の発表では、防災教育において児童が自ら考え判断できる力を育てる取り組みについて紹介されました。従来は、教員の指示を受けてから避難行動をとる訓練が中心でしたが、さらに一步進んで、自ら判断する力や意識の継続を引き出す訓練の見直しの工夫が紹介されておりました。

今回の班別研究はいずれの提案も「子どもたちの主体性をひきだすこと」が共通テーマでありました。子どもたち自身が学校環境衛生に関心を持って関わることは、非常に意義深い取り組みだと感じました。また、日頃の関係者との連携について、近隣の学校の対策は学校薬剤師を通じて相談できる体制があり、これが養護教諭同士の連帯感や安心感にもつながっているというお話も伺いました。

今後も、先生方と連携を図りながら、学校現場において適切な助言が行えるよう、努めてまいりたいと考えております。

◇各種学校保健研究大会参加報告

令和 7 年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会

錦糸小学校 学校薬剤師 鴨下 寛明



令和 7 年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会（群馬大会）が、令和 7 年 10 月 23 日（木）・24 日（金）の 2 日間、群馬会館にて開催され、現地で参加いたしました。本協議会への参加は、令和 5 年度、令和 6 年度に続き、今年度で 3 年連続となります。全国各地の学校現場における実践的な取り組みや最新の知見に触れることができる貴重な機会であり、今年度も多くの学びと刺激を得ることができました。本協議会は、学校環境衛生および薬事衛生を通じて学校保健を一層推進することを目的として開催され、課題ごとに講演や発表、意見交換が行われました。なかでも、特に印象に残った特別講演および課題 2「医薬品に関する教育」についてご報告いたします。

特別講演「発達期における睡眠の意義と教育的支援」では、睡眠が学力・体力・メンタルヘルスに大きく影響することが、科学的エビデンスをもとに示されました。東京大学の研究グループが推進している「子どもの睡眠健診プロジェクト」では、生徒が約 1 週間、日常生活下でウェアラブルデバイスを装着し、客観的な睡眠測定に基づく全国規模での小・中・高校生の睡眠実態調査が進められています。日本は世界的に見ても睡眠時間が短い、いわゆる「睡眠負債大国」であり、子どもの睡眠問題が社会全体の課題であることを改めて認識しました。小学生の推奨睡眠時間が 9～12 時間であることや、睡眠の「量・質・リズム」のすべてが重要であり、これらが親子間で高い相関を示している点が印象的でした。さらに、近隣の江戸川区では本プロジェクトに約 5 年前から参加し、睡眠に着目した取り組みが進められていることが紹介され、墨田区においても区単位での取り組みの可能性を感じました。

続いて、課題 2「医薬品に関する教育」では、群馬県立勢多農林高等学校 教諭 高林先生より、前任校である群馬県立高崎北高等学校における実践報告が行われました。本発表では、「自分事」をキーワードに、医薬品の正しい使い方を生徒自身の生活と結び付けて理解させる工夫が紹介されました。事前アンケートに基づき授業を構成し、薬剤師から医薬品の正しい服用方法について興味・関心を高める実験が紹介され、それを教師が授業として実践するという連携のもとで授業が行われていました。実験動画を用いて体内で起こる反応を視覚的に示すことで、生徒が納得して理解できる授業実践となっており、専門的な内容であっても体験的に学ぶことで知識を行動につなげられる点は、学校薬剤師として大変参考になりました。

今回の研究協議会で得た学びは、私自身の学校薬剤師としての活動を見直す契機となりました。私の担当校では、令和 8 年（2026 年）より学校保健委員会が再開されます。講話のテーマを「薬の正しい使い方」とし、事前にアンケートを実施したうえで、生徒および保護者の実態に即した内容で講話を行う予定です。

本協議会で得た知見や刺激を、今後は担当校のみならず墨田区全体へと還元できるよう、学校薬剤師としての役割を意識しながら活動を続けていきたいと思っております。また、学校薬剤師として「何を伝えるか」だけでなく、「どのように関わり、どのように行動につなげていくか」を、私自身が「自分事」として考えることの大切さを改めて認識しました。今後も学校現場に寄り添いながら、生徒の健康を支える存在であり続けたいと考えています。

◇各種学校保健研究大会参加報告

令和 7 年度全国学校保健・安全研究大会

寺島中学校 学校薬剤師 川村 妃砂子



令和 7 年度 全国学校保健・安全研究大会が令和 7 年 11 月 20・21 日の 2 日間、横浜武道館、パシフィコ横浜ノースで開催されました。

本大会は、多年にわたる研究成果を踏まえ、生涯を通じて心豊かにたくましく生きる子供の育成をめざして、諸課題について研究協議を行い、学校保健・学校安全の充実発展に資するものであり、今年度は、「～急速に変化する社会の中で主体的に健康課題の解決に取り組む子供の育成～」をテーマにした研究大会でした。

大会初日は、横浜国立大学 教育学部教授 物部博文先生による「現代的な健康課題の解決に向けた学校保健・安全の体制づくりをめざして」の記念講演を拝聴しました。

児童生徒の健康および安全の課題は、地域の特性、自然環境、社会環境をはじめとする、埋め込まれた状況のなかで生じる。また、学校における健康・安全への取組も同様にそこに存在する人やその関係性、専門家の存在や関係性等の状況に依存するために状況を見極めながら実施していく必要がある。

日本の子供たちは健康でウェルビーイングなのか？

教員が児童生徒の健康・安全への対応に苦慮している状況などの調査結果をもとに、今、目の前にいる児童生徒の課題を健康・安全という視点で再度捉えなおし、置かれた状況の中で何ができるのかを考えてほしいとまとめられました。

2 日目は、課題別研究協議会が開催されました。私は、第 6 課題「学校環境衛生」と第 7 課題「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」に参加しました。

快適な学校環境を作るためには、環境衛生活動の充実を図るとともに、教職員及び児童生徒が学校における環境衛生について関心を持つことが必要であります。学校環境衛生活動を保健活動の貴重な機会と捉え、養護教諭、学校薬剤師、学級担当教諭等と連携し、環境衛生検査や保健教育の授業等を視覚的に分かりやすく伝えていくことの大切さを学びました。

また、喫煙、飲酒、薬物乱用といった行為は、健康を損なうだけでなく、将来の社会生活にも深刻な影響を及ぼす問題があり、予防教育の重要性は、ますます高まっています。

私がこのセッションでもっとも関心を持ったのが、市販薬のオーバードーズに関する問題です。乱用の対象となっている市販薬として、鎮咳去痰薬、総合感冒薬、解熱鎮痛薬、抗アレルギー薬があり、ドラッグストアやネットで手軽に購入できます。

これらの薬剤を購入する若者は、本来の薬剤の目的とは異なり、気持ちの落ち込みが改善する目的で服用しているとのこと。その背景として友人関係、家族関係に起因する生きづらさを抱えているということ。従来の薬物乱用の教育は、覚醒剤、大麻、コカイン、MDMA などの違法薬物を取り上げることが多い中、市販薬の乱用率は違法薬物の 10 倍高いと言われ、現在、社会問題となっています。

今回の研究大会の参加は、大変有意義なものでした。今後も学校薬剤師として学校環境衛生、安全教育に参画して活動していきたいと考えます。

◇認知症について

小梅小学校・横川小学校 学校医（内科医）山室 学



現在、墨田区のすべての小学校で 4～6 年生のうち 1 学年（学校によって学年は異なる）を対象に認知症に関する正しい知識を得られるように認知症サポーター養成講座が行われています。この認知症サポーター養成講座は、各高齢者総合支援センターで定期的に行われているほか、職場や町会などの 5 名以上のグループなどを対象とし、高齢者みまもり相談室が出張して行っているものです。現在、墨田区でこの講座を受講した認知症サポーターは、R7 年 12 月現在、34,861 人で区民の 12%に当たります。この認知症サポーター養成講座は平成 17 年から始まり、全国では受講者数は累計 16,827,865 人に上ります。学校での認知症サポーター養成は、5,587,210 人で全体の 33.6%に当たります。

認知症の人もその家族も、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、令和 6 年 1 月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。この法律は、認知症の人を権利の主体として尊重し、地域社会全体で支え合う共生社会の実現を目指すものです。認知症基本法は、認知症の人が尊厳を持ち、自分らしく暮らし続けられる社会をつくるための法律です。

古い認知症観は、

- ・他人ごと。
- ・認知症だと何もわからない、何もできない。
- ・社会の負担、支援される人
- ・地域で暮らすのは難しい。
- ・認知症になったら人生終わりだ。

認知症基本法での新しい認知症観では、

- ・誰にでも起こること。自分ごと。
- ・わかること、できることがまだまだある。
- ・本人が一番困っている。
- ・本人の人権が重視されるべき。
- ・本人が決められるように支援が必要
- ・本人も支え手でもある。家族や地域の一員として暮らし、活躍する。といったイメージになっています。

認知症は、高齢になるほど発症する可能性が高まる病気であることから、高齢化が進む今後も、その増加傾向は続くといえます。誰もがなる可能性があり、かわることのある身近な病気です。しかし、認知症は、早く気づいて対応することで、その症状を軽減できたり、進行を遅らせたりすることができます。認知症という病気について理解し、対応のポイントを押さえ、認知症の人やその家族が活用できるサービスや制度を知って、さらに、認知症のリスクを減らす方法までを認知症ケアパスにまとめてあります。一人でも多くの認知症の人やその家族が、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症という病気を理解していただくために、活用していただきたいです。墨田区認知症ケアパスは下記 URL にありますので参照してください。

（https://www.city.sumida.lg.jp/kenko_fukushi/koureisya_kaigohoken/ninchisyo/index.files/R6pamphlet.pdf）

墨田区では令和 7 年度より 65 歳と 70 歳の方を対象に認知症検診が始められています。

「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」を行いその点数が 20 点以上の方、または認知症が気になる方が医療機関で検診を受けることとなっています。チェックリストは、下記の URL にありますので、対象年齢でなくても一度チェックしていただくとよいと思います。

（<https://www.ninchishounavi.metro.tokyo.lg.jp/kisochishiki/checklist/>）

認知症に関する相談窓口は主に区内 8 か所にある高齢者支援総合センターです。しかしながら、認知度は低いのが現状で、令和 7 年度墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では 6 割の区民が相談窓口を知らないと答えています。また、「認知症になっても自分らしく暮らし続けられるか？」の間には約 10%がそう思う、約 20%弱がそう思わない、約 70%が分からないと答えています。共生社会の実現にはもう少し時間がかかりそうです。

◇保健室から

「子供たちの心身の健康を支えるために」

中和小学校 養護教諭 石井 由里子

1. 保健室に求められる役割

児童が学校生活を送る上で、「保健室は安心できる場所だ」と感じてもらえるように、日々対応を行っています。けがや体調不良の手当はもちろんですが、不安や悩みを抱え、気持ちが落ち着かない時に来室する児童もいます。そのような時は、まずはゆっくり座って、呼吸が整うのを一緒に待ったり、短い会話を交わしたりしながら、気持ちが少し軽くなるような関わりを心がけています。同じ理由で来室しても、児童の背景や気持ちはそれぞれ違います。一人ひとりが必要としていることを考えながら、些細なことでも記録に残し、担任の先生や管理職と情報を共有し、その児童に合った支援ができるように努めています。判断に迷うこともありますが、学校全体で児童を見守る姿勢を大切にしています。また、よりよい支援につなげるため、研修会や他校の事例研究にもできる範囲で参加し、学んだことを日々の実践に生かすようにしています。「こうするとより良い対応ができるかもしれない」という気づきが、私自身の成長にもつながっています。

2. 健康の大切さを伝え続ける

児童に「健康の大切さ」を伝えることは、養護教諭として欠かせない役割です。健康は、毎日の生活習慣の積み重ねによってつくられます。食事・睡眠・運動といった基本的な生活習慣が整うことで、体だけでなく気持ちも安定し、学校生活をより元気に過ごすことができます。しかし体調不良で来室する児童の中には「就寝時刻が遅い、朝食を食べていない」といった児童がおり、学年が上がるにつれて、その数は多くなっていきます。

心と体は深くつながっているため、体調が悪いと心も不安定になりやすいです。保健室では、こうした心と体の関係についても、児童に粘り強く伝えながら、心身両面から健康を支えていけるように関わっています。

3. 児童の気持ちに寄り添うために

児童の悩みや不安は、勉強や友達関係、習い事や家庭のことなど多岐にわたり、ときには、「無理はさせずに、休ませた方が良さそう」と思う児童がいます。そのような時は、今見えている姿だけではなく、その背景にある気持ちや状況を意識しながら、心に寄り添うようにしています。また、子どもたちは、心の状態を言葉でうまく表現することが難しく、周りの大人も変化に気付きにくいことがあります。そのような児童の小さなサインに気付くために、日頃から児童の様子をよく見ておくようにしています。友達との関わり方、朝の登校時の様子、休み時間の過ごし方など、様々な場面に変化が表れます。普段の姿を知っているからこそ、「いつもと何か違うかもしれない」という小さな変化を見つけることができます。そうした小さな変化に早めに気付いて声をかけることで、必要な支援につながり、大きなトラブルを防ぐこともできるのです。

保健室は、けがの手当だけではなく、児童の心と体の健やかな成長を見守り、支えていくための大切な場所だと思います。これからも児童との毎日の関わりを大切にしながら、安心して過ごせるような学校づくりに養護教諭として尽力していきたいと思っています。

◇墨田区学校保健会総会記念講演

「学校薬剤師の行う薬物乱用防止教室 ～オーバードーズ防止を含めて～」

講師：隅田小学校 学校薬剤師 濱野 明子 氏

令和 8 年 1 月 29 日 (木) 墨田区役所 1 3 階 1
3 1 会議室で、墨田区学校保健会総会記念講演を
開催いたしました。

今回は隅田小学校の学校薬剤師である濱野明子
先生に「学校薬剤師の行う薬物乱用防止教室～オー
バードーズ防止を含めて～」を御講演いただきました。

***** 講演の一部を御紹介します *****

「捕まらない薬物の台頭」

- 従来、薬物乱用というと麻薬や覚せい剤といった違法薬物の使用というイメージがあるが、現在は、市販薬による薬物乱用が増加している。
- 市販薬を主たる薬物とする依存症患者が 2012 年から 2020 年にかけて約 6 倍に増加している。

「オーバードーズとは」

- オーバードーズとは、医薬品の過剰使用（過剰摂取）のことであり、オーバードーズすることにより、急性中毒（吐き気、頭痛、意識障害、呼吸障害といった症状がでることがあり、死に至ることもある。）や薬物依存症（自分の意思では、薬物の使用をコントロールできなくなってしまう障害）に陥ってしまう。
- 乱用の恐れのある医薬品がドラッグストアなどでも手に入るため、若年者の一般用医薬品によるオーバードーズが近年増加している。
- 傾向としては、男子よりも女子が多い特徴がある。
- 若年者の依存症患者の特徴としては、自己評価が低く、自信が持てない、人が信じられない、本音を言えない、孤独でさみしい等があげられる。

「薬の適正使用から始める「薬育」」

- 薬は、血管内に入ることによってはじめて効果を示す。用法用量を守り、適切に摂取することで、薬の血中濃度が一定に保たれ、薬の効果が発揮される。しかし、オーバードーズでは、急激に薬の血中濃度が高くなるため、意識障害といった急性中毒を引き起こしてしまう。

- ただし、オーバードーズに使用される一般用医薬品や処方箋医薬品が悪者ではなく、正しい使い方を伝えていく必要がある。

「学校薬剤師の行う薬物乱用防止教室」

- 学校薬剤師の行う薬物乱用防止教室は「くすりの適正使用」の理解からオーバードーズ防止につながるように構成している。
- 警察による取り締まり対象が「違法薬物」であり、一般用医薬品による薬物乱用の取り締まりは難しいとの相談があったことから、令和 7 年度東京都薬剤師会は、警視庁との共同事業をモデル的に行っている。限られた時間の中で初めて行う学校でも使いやすい資料を用意している。
- 学校や関係する方々と協力しながら、医薬品の正しい使い方を多くの児童、生徒に伝えていきたい。

講演を聴いた教職員等からは、

「市販薬でのオーバードーズは、本当に気を付けなければと痛感した。」

「“捕まらない薬物”というフレーズは印象的であった。」

「オーバードーズという言葉は知っていても、どのような医薬品を使用してしまうのかを知ることができて、参考になった。」

「巻き込まれないよう、また薬物に頼らなくてもすむよう、“心の健康”を支えていきたいです。」

「適切に適量にということを指導していきたいです。」

「薬剤師の先生の日頃の取り組みに感謝したい。」

等々… お声をいただきました。

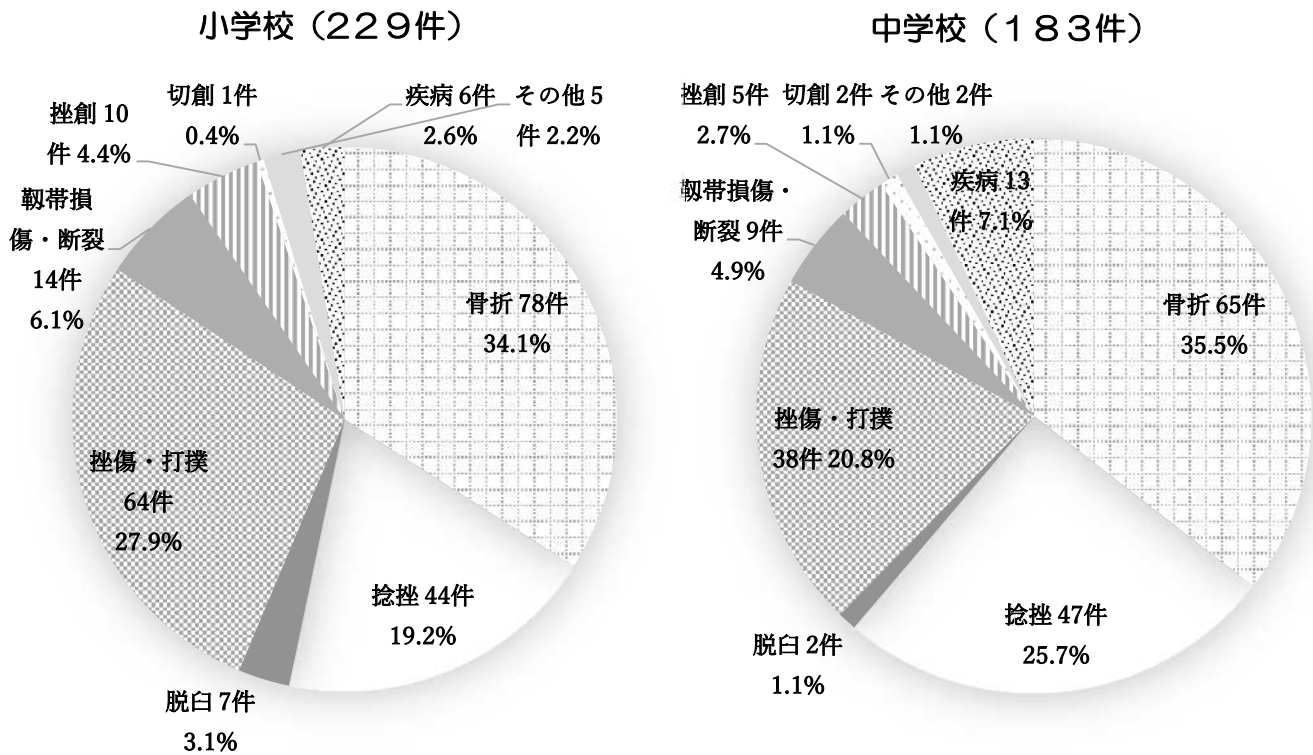


◇墨田区立小中学校 定期健康診断疾病異常集計表（令和6年度）

項目	学年	小学校						中学校				合計		
		1	2	3	4	5	6	小計	1	2	3		小計	
1.在籍者数		1,745	1,778	1,807	1,721	1,713	1,709	10,473	1,301	1,345	1,375	4,021	14,494	
2.受診者数		1,727	1,757	1,798	1,701	1,689	1,689	10,361	1,273	1,259	1,306	3,838	14,199	
3.栄養状態	(1)栄養不良	11	19	15	23	10	30	108	4	7	7	18	126	
	(2)肥満傾向	9	16	28	28	30	26	137	15	10	8	33	170	
4.脊柱胸郭四肢	疾病・異常者数	13	13	19	17	42	38	142	18	29	35	82	224	
	(1)脊柱側湾症・脊柱異常	7	7	17	6	29	33	99	9	15	6	30	129	
	(2)胸郭異常	1	0	0	0	0	1	2	1	3	0	4	6	
	(3)四肢異常	6	6	2	11	14	6	45	10	12	29	51	96	
5.視力	裸眼視力測定者 (1)～(4)の合計	裸眼視力測定者 (1)～(4)の合計	1,723	1,708	1,688	1,572	1,496	1,459	9,646	971	946	896	2,813	12,459
		(1)1.0 以上	1,135	1,110	968	824	773	673	5,483	403	398	375	1,176	6,659
		(2)1.0 未満 0.7 以上	348	275	255	223	164	173	1,438	145	129	123	397	1,835
		(3)0.7 未満 0.3 以上	202	220	281	298	293	297	1,591	211	217	200	628	2,219
		(4)0.3 未満	38	103	184	227	266	316	1,134	212	202	198	612	1,746
	眼鏡・コンタクト装用者のため矯正視力のみ測定者	15	56	111	136	199	228	745	306	335	410	1,051	1,796	
6.眼疾患	受診者	1,738	1,753	1,789	1,693	1,674	1,665	10,312	1,257	1,242	1,249	3,748	14,060	
	疾病・異常者数	67	65	78	56	64	66	396	69	96	98	263	659	
	(1)感染性眼疾患	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	
	(2)アレルギー性眼疾患	22	22	38	23	13	26	144	42	58	50	150	294	
(3)その他の眼疾患	45	44	41	33	51	40	254	27	39	50	116	370		
7.聴力	受診者	1,736	1,770	1,784	—	1,703	—	6,993	1,288	—	1,314	2,602	9,595	
	難聴	16	11	12	—	4	—	43	4	—	0	4	47	
8.耳鼻咽喉科疾患	受診者	1,734	1,763	1,799	1,694	1,663	1,675	10,328	1,242	1,226	1,236	3,704	14,032	
	(1)耳疾患	202	186	182	150	153	128	1,001	133	66	86	285	1,286	
	(2)鼻・副鼻腔疾患	149	164	158	125	119	135	850	283	240	269	792	1,642	
	ア アレルギー性鼻疾患	37	55	63	53	47	60	315	220	209	229	658	973	
	イ その他の鼻・副鼻腔疾患	115	110	97	73	77	75	547	63	31	40	134	681	
(3)口腔咽喉頭疾患	12	6	6	2	2	2	30	0	0	0	0	30		
9.皮膚疾患	(1)感染性皮膚疾患	10	2	1	0	1	0	14	0	0	0	0	14	
	(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)	25	18	25	23	20	26	137	45	51	51	147	284	
	(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
	(4)その他の皮膚疾患	26	22	17	11	9	8	93	0	0	3	3	96	
10.結核	受診者	1,742	1,774	1,806	1,714	1,709	1,700	10,445	1,284	1,289	1,330	3,903	14,348	
	(1)結核患者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(2)精密検査対象者	11	2	2	2	5	4	26	1	2	0	3	29	
11.心臓	受診者 (心電図検査)	1,736	—	—	—	—	—	1,736	1,274	—	—	1,274	3,010	
	(1)心臓疾患	47	7	9	8	7	4	82	29	9	5	43	125	
	(2)心電図異常	61	—	—	—	—	—	61	37	—	—	37	98	
12.検尿	受診者	1,743	1,767	1,806	1,712	1,698	1,695	10,421	1,290	1,274	1,319	3,883	14,304	
	(1)尿蛋白検出	7	3	16	4	9	22	61	29	51	39	119	180	
	(2)尿糖検出	0	0	0	1	1	5	7	1	4	4	9	16	
13.その他	(1)気管支喘息	22	24	17	8	13	7	91	20	20	19	59	150	
	(2)腎臓疾患	0	1	2	1	2	0	6	1	0	2	3	9	
	(3)言語障害	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	2	
	(4)その他の疾病・異常	10	11	6	9	8	18	62	6	4	9	19	81	
14.歯科	(1)歯科受診者	1,728	1,749	1,786	1,691	1,675	1,661	10,290	1,255	1,237	1,268	3,760	14,050	
	(2)う歯・要観察歯	乳歯又は永久歯のうち	95	157	162	206	165	170	955	184	218	187	589	1,544
		ア 処置完了者 イ 未処置歯のある者	174	200	265	253	216	150	1,258	93	105	108	306	1,564
	ウ 永久歯のうち経験者	22	59	106	124	170	216	697	238	313	290	841	1,538	
	エ 乳歯又は永久歯に要観察歯のある者	56	70	72	88	58	75	419	152	171	158	481	900	
	(3)歯肉状態	ア 歯周疾患	8	11	15	18	33	27	112	30	46	21	97	209
		イ 歯周疾患要観察者	0	12	16	40	28	42	138	141	148	106	395	533
	(4)歯列・咬合の異常	16	24	38	44	25	40	187	27	36	43	106	293	
	(5)顎関節の異常	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4	4	
	(6)歯垢の状態(歯石含む)	61	86	58	56	75	51	387	18	42	47	107	494	
(7)その他の歯・口腔の疾病・異常	12	20	13	13	15	10	83	2	2	0	4	87		
(8)永久歯のうちの内容	ア 未処置歯数 (D)	—	—	—	—	—	220	220	188	—	—	188	408	
	イ う歯による喪失歯数(M)	—	—	—	—	—	0	0	11	—	—	11	11	
	ウ 処置歯数 (F)	—	—	—	—	—	256	256	325	—	—	325	581	

◇墨田区立小中学校 学校管理下における負傷の種類別災害発生状況

(令和6年度)



※その他は、裂創、熱傷・火傷、歯牙破折、刺創など

◇墨田区立小中学校 児童・生徒の体位

(令和7年度)

	男子		女子	
	身長(cm)	体重(kg)	身長(cm)	体重(kg)
小1	116.8	21.04	115.8	20.64
小2	122.9	23.94	122.1	23.57
小3	128.9	27.63	128.2	26.6
小4	134.9	31.49	134.4	30.78
小5	140.1	35.61	141.1	34.8
小6	146.9	40.43	148.1	40.12
中1	155.4	44.55	153.1	44.73
中2	161.9	52.37	155.9	47.75
中3	167.5	56.07	156.9	49.08

◇令和7年度東京都教育委員会表彰

(健康づくり功労) 被表彰者

職種	氏名	委嘱校
学校医 (内科)	小田 三郎	吾嬬第二中学校
学校歯科医	高田 敬一	第三寺島幼稚園
学校薬剤師	濱野 明子	隅田小学校

(敬称略)

墨田区学校保健会だより 第43号

発行 墨田区学校保健会
 事務局 墨田区教育委員会事務局学務課内
 墨田区吾妻橋一丁目23番20号 電話 03-5608-6305